

項目		チェック内容	A	B	C	D	現状と課題	今後の取組み
①	教育課程	<b>カリキュラム・マネジメント</b> ※教科等横断的な視点で教育内容を組織し、PDCAサイクルを確立しているか。					年度当初に相知小スタンダード(学力向上編)を補筆・改善しながら、全職員に提示し、アクションプランに基づいた授業スタイルの共通理解を図った。主に人権・同和教育と道徳の連携や、各学校行事等において汎用性のある内容で関連付けてきた。	昨年度のカリキュラムで実行が難しかった内容を改善したい。特に地域行事・地域ボランティアの活用や人権同・和教育的視点での見直しが必要である。
②	単元	<b>単元の学習過程</b> ※単元等のまとまりで問題解決的な学習過程を仕組んでいるか。					各学期ごとに実施した学習課題一覧表を作成し、それを参考にして学習課題を立てる学級が増えた。学習課題を立て、他の学年と交流しながら課題解決的に学習している様子が見え始めた。しかし、全教科にわたっているわけではない学年もある。	国語科・算数科以外の学習課題一覧表を作成して課題の例を示していきたい。ひとまとまりの単元を課題解決的に設定できる例を示したい。また、課題の中に「身に付ける力」を明記することを提示していきたい。
③	1 単 位 時 間	課題提示	<b>単元全体の見通しと現在地の把握</b> ※児童生徒に学習の道筋を理解させているか、前時の復習をさせているか。				学習課題に導くための導入を工夫し、問題解決のために「何を学ぶのか」「どのように学んでいくのか」「何を身につけなければならないのか」を児童が主体的に設定できるような手立てをとっている。	校内研における理論研修等で、具体的な進め方を提示し、さらに参考にしやすいように、相知小スタンダード(学力向上編)を改善していきたい。
④			<b>本時の学習課題の把握</b> ※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。				実際の生活場面から問題意識や切実感をもたせながら各単元における導入→学習課題→学習計画を設定し、そこから児童の言葉でめあてを設定させるように進めてきた。授業研究単元のみで実践が終わるのではなく、継続して取り組む必要がある。	今後も各単元における導入・学習課題設定等を工夫し、児童に課題(問題)意識を明確に持たせる。「疑問」や「気づき」をつなぎ合わせて、児童自らが学習課題づくりに取り組めるような手立てを図る。
⑤		学習活動(課題解決)	<b>個別の課題解決学習(PersonalWork)*</b> ※課題解決の時間や場を確保しているか。				PWの時間を一人で十分に課題解決することができるよう、私語(学習内容を含む)を許さないなどの授業の約束を指導してきた。昨年度後期から「学び方ファイル」を作成しているが、取組期間が短いこともあり、授業で使える場が限られている。	どの単元の終末にでも使えるような、既知をメタ認知できるワークシート作りを示し、スタンダードに加え、また、ワークシートやポイントシートを「学び方ファイル」に追加していく。
⑥			<b>グループによる課題解決学習(GroupWork)*</b> ※課題解決に向け、複数意見からひとつの意見にまとめるような話し合いの場を仕組んでいるか。				グループワークアシストシート(アップライン・グレーライン)を作成し、深めるためのスキルを身につけられるような手立てをとった。転入職員に対しても研修を行い、全職員で一貫した指導ができるようにしている。	各個人の考えの紹介を一人一人報告させる「整理型グループワーク」ではなく、ノート・ワークシートを中央に集め、分類・整理させながら意見(気づき)を交流させる「発見型グループワーク」にシフトさせていく。
⑦			<b>クラスによる課題解決学習(ClassWork)*</b> ※各グループの意見を生かした話し合いを仕組んでいるか。				全学級「学習リーダー」を設置し、学年の実態に応じながら進行委員会、計時、記録などの役割を持たせている。複数の考えを分類・整理したり、意見を交流させたりする際の教師の効果的な指導方法が難しい。	グループワークと同様に複数の考えを分類・整理させながら意見(気づき)を交流させる「整理型クラスワーク」にシフトさせていく。よりよい考え方へつなげられるよう、全体交流(練り合い)の目的と視点を明確にする。
⑧			<b>教師による解説、解決、解答</b> ※児童生徒の学びを深め、理解不足を補う説明を行っているか。				本時の学習課題に照らし合わせ、児童の考え・児童の言葉等を基にして説明を短時間でできるようにしてきた。問題解決場面において児童が導き出したまとめが不十分である場合、教師による補説が十分でないことがあった。	ポイントを絞った解説をするための教材研究の深まりが求められる。「教えること」と「考えさせる(気づかせる)こと」を明確にし、児童の現状(理解度)把握や「教科リーダー」との効果的な打ち合わせを図ったりしていく。
⑨			<b>子どもの最終的な記述(表現)</b> ※本時の学習課題と対応した記述(表現)をさせているか。				児童の言葉でまとめを行うことができるように、クラスワークで自己の記述の修正や、キーワードに気づかせるよう、電子黒板や板書で提示の工夫をできた。「めあて」に対応できていない「まとめ」を児童が考え出した場合、適宜補説を行っている。	授業の中で児童自身が学習をまとめることについては、定着してきたが、「まとめ」の文章に本時の学習内容についての記述が十分に書かれていないことがある。教師の適切な補説の在り方や「まとめ」までのクラスワークの進め方を改善していく。
⑩		評価	<b>学習の振り返り</b> ※学んだことの整理や自己評価の場を設定しているか。				一単位時間の学習の振り返りについては、学習内容をふまえて振り返りができるようにしてきた。しかし、単元全体の振り返りを十分に行うことができていない。	適切な学習時間の配分と時間枠を徹底して守ることが大切である。また、「何を」「どのように」振り返るのかを明確に提示し、「まとめ」と「振り返り」が混同しないように留意しながら指導する。
⑪			<b>条件に応じた記述(書く力)</b> ※条件付きの書く活動を授業の中に仕組んでいるか。				毎日の家庭学習に条件付きを取り入れ、意欲的に取り組めるようにたくさんテーマから選択するなど工夫を行っている。文章量は着実に増えてきているが、「条件を踏まえながら適切にまとめる力」は十分ではない。	キーワードや行数指定などの条件把握だけでなく、資料や問題文を正しく読み取る(読解力)学習も併せて行う。問いに対して、資料の文章を適切にまとめる活動を意識的に組み込んでいく。
⑫		その他	<b>言語活動を活発にする教育環境</b> ※学習活動を活発にするために掲示物等の教室内外の環境を工夫しているか。				学び方ファイルや校内掲示物の活用を通して、各教科等で活用できる汎用的技能(ラーニングスキル)の定着を図っている。全学年において掲示物、号令・朝・期の会、全校放送などで、自然に英語に親しむことができるようにした。	学び方ファイルや校内掲示物の他に、「1時間の学習の流れ」話し合いの約束「グループタイムの役割」等の掲示物を活用しながら学習を進めさせる。学習内容に応じて、掲示内容の修正・追加も随時行う。
⑬			<b>ノート指導</b> ※学校や教師の指導の意図を反映させたノート指導を行っているか。				ワークシート・ノートについては、校内研修で形式を示し、相知小スタンダードとして共通理解のもと指導している。国語編・算数編でどちらも児童が授業の流れが分かるワークシートづくりに示している。	研究推進部でワークシートの形式を示したが、全学級に浸透しているとは言えない。ノート指導については不十分だったので、時間をとって研修を行っていく。
⑭	<b>学習規律</b> ※児童生徒に学習規律を理解させ、主体的に守らせようとしているか。					学習場面において児童主体の進め方に慣れ、教師の指示も少しずつ減ってきた。児童が戸惑うことなく学習課題の達成に向かって集中して取り組むことができるようになってきた。	教師に頼らず学習リーダーとして授業を進めていく自覚ができてきている。次年度に向けて継続することが大事である。	
⑮	<b>家庭学習</b> ※単元の指導内容や方法と結びついた課題を出しているか。					家庭訪問時に児童・保護者向けの家庭学習啓発リーフレット「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭学習の意義と重要性について指導・説明を行った。しかし、どの学級も家庭学習が定着していない児童があり、保護者と一体となった指導が必要である。	講演会や説明会を通じて保護者への啓発を継続し、「学年×10分+10分」の家庭学習時間の徹底を図る。また、宿題の出し方についても研修を行い、それまでの学年の既習事項や活用力が定着するように内容の吟味を行う。	
⑯	<b>学習内容の定着</b> ※学年間・小中間における教科の系統性を見直し、復習の時間を計画的に仕組んでいるか。					国語科・算数科では、単元の中に「習熟の時間」を設定し、基礎的・基本的な知識・技能が定着するように、単元作りを工夫している。また、主要4教科の復習(練習)プリント集コーナーを職員室内に設置し、自由に選択して配布できるようにしている。	各教科の年間カリキュラムを見直し、学期毎に基礎的・基本的な学習内容の定着を図る活動を組み入れる。また、外部人材の活用も積極的にを行い、家庭・地域と一体となって既習内容定着の徹底を図る。	
その他の取組み								

\* PW・GW・CWについて順序性はない。授業のねらいと児童生徒の実態に応じて組み合わせる。